

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿<11月16日（金）放送分>

テーマ「郷土の偉人」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は、毎月第3週に、奄美にゆかりのある作家や偉人を紹介するシリーズ「郷土の偉人」の8回目です。

今朝は、『南島雑話』を書き残したことで有名な「名越左源太」を紹介します。

昭和24年10月、西南文化研究会から発行された『高崎くずれ 大島遠島録』の「名越左源太翁小伝」によりますと、名越左源太は、今からおおよそ200年前、文政2年12月28日に鹿児島市下竜尾町に生まれました。幼名は源太郎、成長して時行、その後、時敏と名を改めました。私たちがよく知る「左源太」という名前は、通称なのだそうです。

左源太は、多才な人で、槍や剣道、弓道などそれぞれの流派の奥義を究めるばかりでなく、和歌に親しみ、医学にも通じていたそうです。

その左源太ですが、島津家の世継ぎ問題、いわゆる「高崎くずれ」により、嘉永3年、（1850年）大島に遠島になりました。左源太31歳の時です。

左源太は、大変筆まめな人で、大島での日々の出来事を毎日欠かさず日記につけていました。その日記は、左源太が大島に向かう船に乗り込んだ嘉永3年（1850年）3月27日に始まり、同年11月4日までの7か月分と、それから4年後に赦免されて鹿児島へ戻るために風待ちをしている安政2年（1855年）4月1日から6月3日までの約2か月、合わせて9か月分が現在も残されています。『南島雑話』と合わせて当時の奄美を知る上で貴重な史料となっています。

例えば、小宿で暮らし始めた嘉永3年（1850年）5月8日の日記は、次のようになっています。

8日 巳亥 晴

（前半割愛）

四つ時分徒より小宿村へ傳左右衛門同道にて参じ候 勿論小宿より藤由気の養子 嘉美行 道案内の為 来候 藤由気の所へ致 著候 所 左絵図の通り渡し 切りの由 承り 拙者一人には 別けて広過ぎ候 是程はいらずと相 断り候得 共 亭主共は多人数の家内台 所住 居にて明け渡し候

藤由気の所へ九つ時分にて候 半 致着し候得ば 段々の馳走にて候 献立 左の通り

茶菓子 かた菓子

大しゅんかんに 百合のせんを 白砂糖いだ そろろにて たて申し 出し 候

吸い物四つ(玉子 しおいり 塩煎 みそ ぶた)

井 四つ(塩 肴 しおさかな 差し身に酢かけ 塩からに木瓜 きうり かずのこ小井 こばち びな塩からふし)

肴 干物

硯 蓋 一面

但 盛具 ただ もりぐ こが焼 午房 ごぼう ぶた 刻み昆布 きざ こんぶ こぐし焼

めしは 鶏 にわとり の汁にて 入具 いりぐ 木瓜 きうり 午房 ごぼう にて 候 漬物 つけもの はみそ漬大根

藤由気 とう ゆき の兄 藤進 とうしん、藤温 とうおん、藤温の子 藤和志 とう わし 来る 藤温より硯 蓋 すずりぶた、焼 酎 しょうちゅう 貰う

傳左衛門 でんざえもん は日の入り前より打ち立ち帰り 候

この日の日記からだけでも、左源太が小宿の藤由気とう ゆきという人のお宅を借用して住んだこと、そこまで歩いて行ったこと、お昼頃到着しご馳走が振る舞われたことなど様々なことを知ることができます。

平成22年5月には、東京虎屋文庫の今村規子けいこさんが、南方新社から『名越左源太が見た 幕末奄美の食と菓子』という本を出版されました。

今村規子さんは、その著書の中で次のように出版の意図を語っています。

「奄美の図書館で郷土資料コーナーの本を手当たり次第にめくったり、知らない言葉をインターネットで調べたりするのは『新しい発見』の連続でもあり、楽しい作業でしたが、なにぶん奄美に関する予備知識がゼロだったこともあり、解決しない疑問も多かったです。そこでブログを開設し、『遠島録』の現代語訳を毎日アップしていくこととしました。つたないながらも情報を発信していれば、そのうち誰かの目に留まって、分からないことを教えてもらえる、という（なかばムシのいい）期待があったためです。（中略）

本書は『遠島録』に出てくる食について『南島雑話』の情報も加えながら抜き出し、幕末奄美の食生活の一端を考えてみようとした、途中報告です。」

現代に生きる著者が、幕末に書かれた日記に興味を持ち、その現代語訳をウェブ上の記録であるブログに載せ、調査研究に役立てたということです。和紙に毛筆で書いた左源太の日記、ウェブサイトにはアップする方法で記録するブログ、と方法はだいぶ違いますが、「毎日つける日記」ということが共通しています。

11月なかばを迎え、そろそろ来年のカレンダーやスケジュール帳、日記帳などが書店に並ぶ頃です。この機会に、自分に合った方法で、日記をつけてみませんか。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。